

# 筋道立てて考え、見通しをもって話し合おう ～お助け救急箱～アイデア事典～

江東区立明治小学校

大村 幸子

## 一 はじめに

話し合い活動のよさは、今まで気づかなかった見方に気づいたり、自分の考えを広げたり深めたりしながら、自己充実を図ることにあるといえる。

このように価値を実感できるような話し合い活動を行うためには、話題を精選することにも、話し合いそのものを展開させる能力として「筋道立てて考える力」を育成する必要がある。中学年における「筋道立てて考える力」とは何か、私は次の二つの力であると仮定し実践を行うこととした。

- ① 互いの意見を分類整理しながら話し合う力
- ② 話し合いの経過を客観的にとらえ、方向性を見通しながら話し合う力

## 二 単元について

### (一) 単元名

「お助け救急箱～アイデア事典～」

### (二) 単元計画（全四時間）

- 1 体調や健康についての心配事を出し合い、テーマを決める。
- 2 話し合い

① 互いの意見を分類整理しながら、原因について話し合う。

② 方向性を見通しながら、解決策について話し合う。

- 3 解決策をカードにまとめ、救急箱を作成する。

### (三) 児童から出されたテーマ

- ・ 朝、すっきりと起きるためには
- ・ 鼻づまりを和らげるには
- ・ 筋肉痛解消法は
- ・ お腹の調子を整えるためには
- ・ 車酔いをしないためには

## 三 授業の実際

### ① 互いの意見を分類整理しながら話し合う力の指導

自分の意見を付箋紙に書き、それを話し合いボードに貼りながら話し合うことで、話し合いを可視化できるようにした。話し合いボードを使って話し合う際のルールとして、次のようなことを指導した。

- ・ 意見（付箋紙）を出すときは、具体例をあげながら出すこと
- ・ 似ている意見は近くに、違うものは離しておき、分類整理すること
- ・ 類似している意見は集めて枠で囲み、小見出しをつけること
- ・ このように、話し合いを「見える化」することにより、互いの意見を分類整理し、項目立てながら話し合いを進めることができるということがわかった。

しかし、互いの意見を分類整理するだけで

は、話し合いそのものを深めたり、広げたりすることはできない。そこで、方向性を見通しながら話し合う力が必要であると考へ、次の指導を行うこととした。

②話し合いの経過を客観的にとらえて、方向性を見通しながら話し合う力の指導

この場合における見通しの方向性として、次の三つを提案する。具体的な指導としては、話し合いの途中で、教師が話し合いのモデルを示した。

A 出された意見をより具体化して考える

いつ・どうやって・どのくらいなど、具体的に追及する。

B 出された意見を抽象化し、さらに別の事例を考える

話し合いのモデル (Aの例)

ア…風邪をひかないためには、手洗いが大事だよね。  
 イ…そうだね、いつ洗ったらいいかな。  
 ウ…外から帰ってきたときだね。  
 ア…食事の前もしなくてはね。  
 イ…どうやって手洗いしている？  
 ア…石鹸をつけて、指の間も……  
 ウ…手首のほうも洗うといいよ。  
 ア…じゃあ、どのくらい？  
 イ…5分くらいかな。

C 原因に戻って、因果関係をもとに考える

だれにでも、どの場合にも対応できる解決策(救急箱)をつくるためには、もう一度原因に戻って、もれがないか、足りないところはないか確認しながら、話し合いを進める必要がある。児童は、原因と解決策のボードを見比べながら、まだ考えていないところはなにか、線を引いたりしながら、一つひとつ確認して、話し合いを進めていた。

四 学習の成果と課題

学習後、子どもたちの話し合いボードを分析してみると、次のようなことがわかった。具体化して考えること(A)はほとんどのグループが取り組んでいる。しかし、抽象化

話し合いのモデル (Bの例)

イ…加湿器を使うといいらしいよ。  
 ア…どうして加湿器がいいの？  
 イ…加湿器は空気を湿らせているんだよ。  
 ア…湿り気を持たせればいいんだね。  
 (よさを抽象化)  
 ウ…それだったら、ぬれたタオルもいいよね。  
 (別の事例)  
 ア…コップに水を入れておくのもいいね。  
 (別の事例)

して別の事例をあげて広げられた(B)のは、十二グループのうち七グループとやりにくかったことがうかがえる。これは、自己評価にも表れている。それによると、Bがよくわからなかったという児童が半数いた。

このように見ていくと、中学年の児童は、物事を具体化して考えていくことはできるが、具体的な事例を抽象化して別の視点から検討したり、妥当性、適切性を評価してフィードバックかけたりするような思考は苦手であることがわかった。

五 おわりに

今回の指導では、互いの意見を分類・整理して話し合う力の指導と同時に、方向性を見通しながら話し合う力について重点的に指導してきた。課題の追究に向けて何がどこまでまとまったか、どんな視点が足りないのかを、確認しながら話し合いを進める力、つまり、話し合いの展開を見通す力の重要性を実感した実践であった。今後は、さらに話し合いの方向性について研究を深め、パターン化して指導に生かせるようにしていきたい。

おむら さちこ 江東区立明治小学校教諭、日本国語教育学会会員。